

平成24年6月10日13:00～17:00

於)大阪大学中之島センター講義
室406号

授業改善における**PDCA**の検討課題 ーフィードバック過程を中心にー

鳴門教育大学 井上奈穂

はじめに

授業の目標・計画は何か(Plan), 実践はどのように行われた(行われる)のか(Do), それらはどのように評価することができるのか(Check), また, 評価の結果はどのような形で授業改善に生かされた(生かされる)のか(Action)。授業改善はこのPDCAの一連のサイクルとして捉えられる。

本発表では, これらのサイクルのうち, CからAにかかるフィードバック過程に着目した大学での実践を2つ紹介し, それを踏まえ, 授業改善にかかるPDCAの検討課題を提示する。

1. 授業改善におけるフィードバック過程の2つの方向性
2. フィードバック過程の実際
3. 授業改善にかかるPDCAの検討課題

1. 授業改善におけるフィードバック過程の2つの方向性

①授業計画・理論改善の過程

教師が自らの授業力向上を目的として行う。
自らの授業理論と授業計画を検討し、そこに見られる実践上の齟齬を授業実践により明らかにし、その結果に基づき、よりよく授業計画・理論を改善する過程。

相互補完関係



②学力保障の過程

目の前の「子ども／生徒」の学力保障を目的として行う。
実際の授業と授業計画の齟齬を検討し、その結果に基づき、よりよく「子ども／生徒」の学力保障につながる学習の手立てを導く過程。

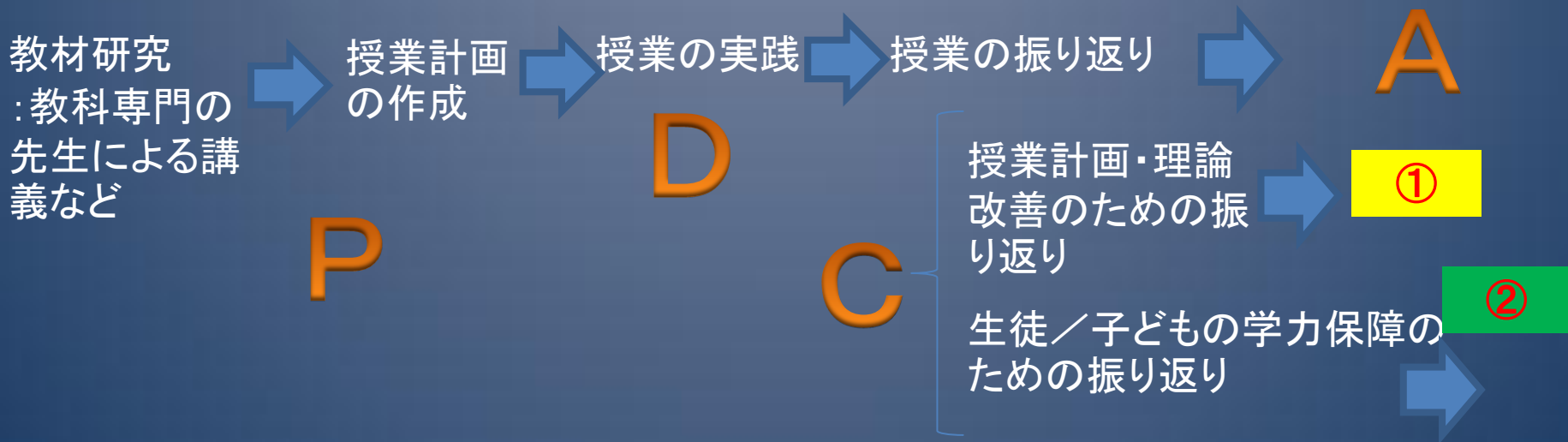
2. フィードバックの過程の実際

(1) 教育実践フィールド研究の位置づけ

目的及び趣旨

:教育課題に教科指導(授業)を通じてアプローチできる「教育専門職」としての力量を形成する。

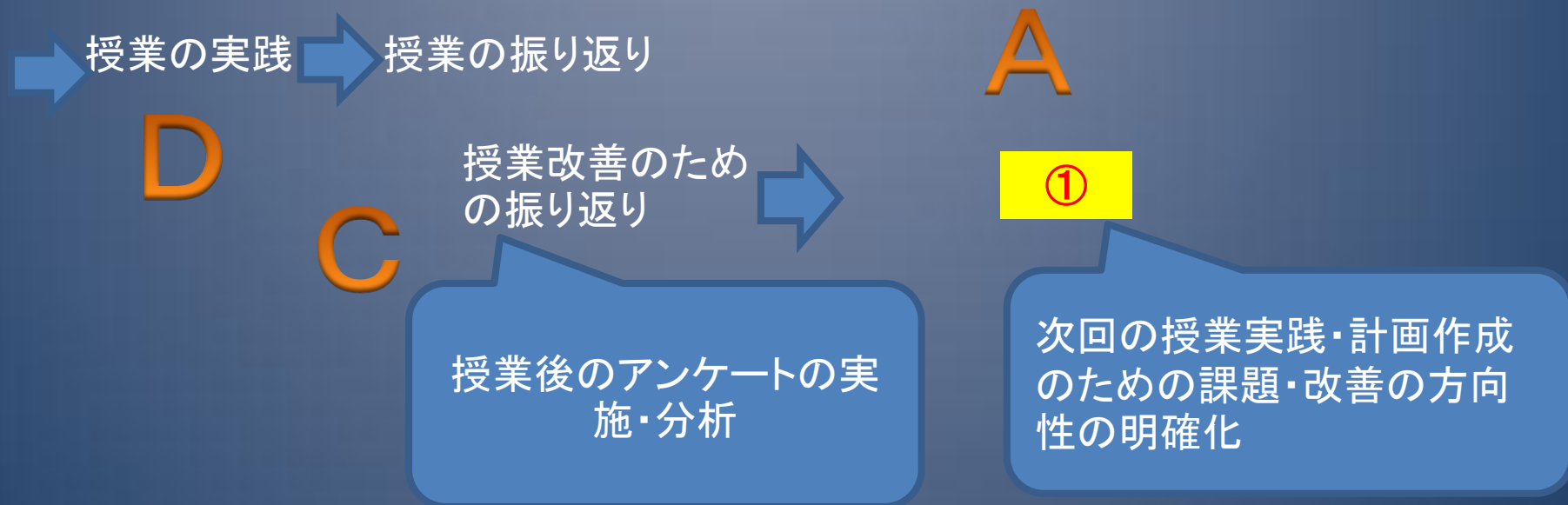
授業計画(平成23, 24年度の社会系コース(小学校班)の場合)



2. フィードバックの過程の実際

(2) 2つのフィードバック過程の実際

① 授業計画・理論改善のためのフィードバック過程 : 平成23年度の実践より



◎授業後の「子ども／生徒」の学力の分析

アンケート項目

- ① 東北観光大使の話を聞いて、「東北は良いところだな」と思った。
- ② アナウンサーのインタビューを聞いて、みんなが「東北は大丈夫」と言っていたので安心した。
- ③ 旅館のお兄さんの話を聞いて、データやグラフを用いて東北の安全性を伝えていたので安心した。
- ④ 3人の話の中で、東北観光大使の話が1番信用できると思った。
- ⑤ 授業のあと、クラスのお友達同士で、「田村先生が東北ボランティアに行ってもいいかどうか」について話し合った。
- ⑥ 授業のあと、授業のことを家に帰って家族と話し合った。
- ⑦ 授業のあと、気を付けてテレビのニュースを見るようになった。
- ⑧ 東北観光大使の思いだけで話を信用することはよくないと思う。
- ⑨ たくさんの人が言っている話は信じるができると思う。
- ⑩ 1年前の話は、今でも信じていいと思う。
- ⑪ 東北観光大使、アナウンサー、旅館のお兄さんの話を聞いても、自分で確認することが大切である。

◎授業実践後に、行なったアンケート(「はい いいえ」の2択)

[アンケートの分析]

- ・1時間目を実施した揺さぶりは効果的であった。
- ・教材の選択「放射能問題」は適切であった。
- ・最終目標であった「自ら情報を確認することが必要である」については全員が理解していた。
- ・ロールプレイで児童を引っ張りすぎている
- ・グラフやデータについての理解が不十分であった。



○ロールプレイの在り方の再検討

→教育内容に着目させるような手立てが必要である。

○グラフやデータに提示についての配慮が必要

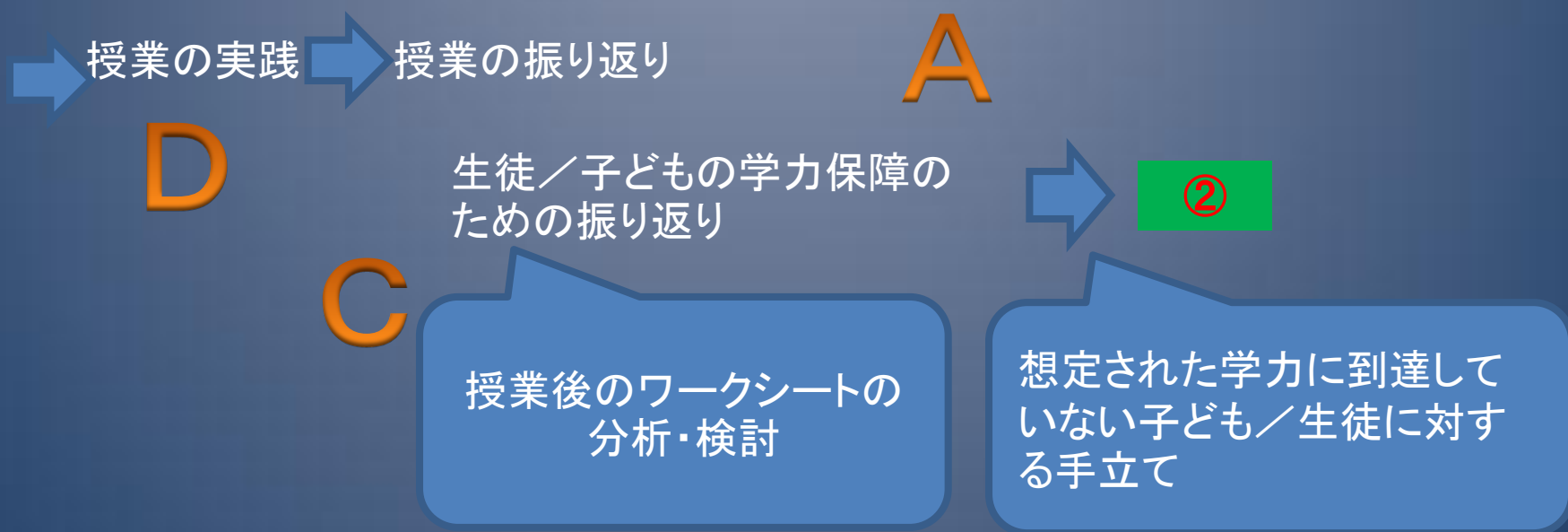
○情報の質(人から聞いた話, マスコミによる情報, 確認した(最新の)情報)を明確にする必要がある。

2. フィードバックの過程の実際

(2) 2つのフィードバック過程の実際

② 学力保障のためのフィードバック過程

: 平成22年度の実践より

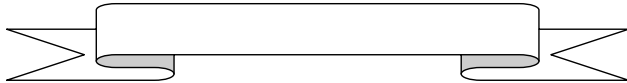


◎「子ども／生徒」の学習状況についての分析

徳島タワー建設について

6年()組 名前()

めあて



1. 新聞を読んで・・・

いいと思ったこと

-
-
-

気になったこと

-
-
-

2. あなたの意見は？

私は()です。

なぜなら・・・

3.

さんの話を聞いて気づいたこと

•

•

•

さんの意見を聞いて気づいたこと

•

•

•

4. あなたの意見は？

もう一度考えた結果、私は()です。

なぜなら・・・

5. あなたが政治に参加する時には、何が大切だと思いましたか？



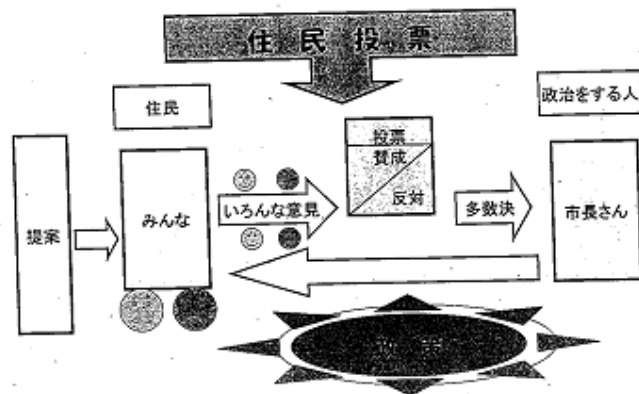
【分析の視点】

- ① どのような情報を獲得できているのか。(ワークシート1, 3)
- ② どのような情報が根拠となっているのか。(ワークシート2, 4)
 - (1) 提示した情報がどの程度反映されているのか。
 - (2) 提示した情報以外で根拠としているものはどのようなものか。
- ③ 民主主義の基本的な考え方を概念化できているか。
(ワークシート5)

[学力保障のための手立て]

5. あなたが政治に参加する時には、何が大切だと思いましたか？

最初は、徳島ターカできたら町か
にぎわたりしていいだろうなと思
けど自然がなくなったりしだすと
いやだなと思った。



住民は思いや願いを「住民投票」によって「政治をする人」に示す事が出来ます。
投票し、政治に参加する時は色々な面から考える事が大切です。
投票する事は「憲法」によって保障されています。

6年生のみなさんへ

お元気ですか。

先日は、私たち鳴門教育大学大学院の
研究授業に協力していただき、どうもありがとう
ございました。

みなさんの活発な意見発表や一生懸命な取り組みに
とても感謝しています。そして、私たちはみなさんから
たくさん元気をもりました。

今回の授業では、社会をいろんな面から考えることを
学んでもらいましたが、このことを少しでも活かしてもらい
中学生になっても、ご活やくされるよう、私たちは心より
お祈りしています。

院生一同より

3. 授業改善におけるPDCAの検討課題

(1) 授業改善のPDCAの目的を整理する

本発表では、授業計画・理論の改善を目的としたPDCAと、目の前の生徒・子どもの学力保障を目的としたPDCAを提示した。それぞれ、計画(P)、実践(D)の段階までは同じであるが、異なる評価と改善が行われることを示すことができたのではないか。

漠然と“PDCA”を捉えるのではなく、その目的(PDCAの対象・範囲)を整理する必要があるのではないか。

(2) フィードバック過程を意識する

計画(P)し、実践(D)したことの成否は、その評価(C)に左右される。その意味では、計画(P)と同時に、事前にその評価の方略とその結果を何のために用いるのかを確定することが必要なのではないか。

(3) 授業改善のPDCAの各段階の明確化

(1)(2)を踏まえ、授業改善におけるPDCAの各段階の具体を再定義する必要があるのではないか。

ご静聴, ありがとうございます。